「嚴島宝物 野坂氏所蔵」毛利元就状 嚴島野坂氏蔵

絵葉書の包紙

絵葉書

▶ 嚴島神社の宝物を絵葉書に

この絵葉書は、全 6 枚組の「嚴島宝物 野坂氏所蔵」と題された絵葉書セットの一つです。この絵葉書の発行については、包紙の裏側に説明が記されています。

それによると、この絵葉書は明治時代に嚴島神社の社家（神職の家柄）の一つである野坂家が所蔵していた古文書の中から、特に重要な 6 通を選んで制作されました。

絵葉書にする古文書の選定を行ったのは、文部省図書官の重田定一氏（当時、広島高等師範学校の教員）です。

重田氏は東京帝国大学の依頼を受け、野坂家が所蔵していた古文書 1,400 通余りを詳しく調査しました。

その後、重田氏は明治 43 年（1910）に調査の成果をまとめた著書『嚴島誌』（発行：東京湯島切通町聚精堂）を発行しました。「詳くは同氏の著『嚴島誌』（中略）に見えたり」と説明にあることから、この絵葉書は明治 43 年（1910）以降に制作されたものと考えられます。

▶毛利元就からの手紙：書状の内容とその意味

この絵葉書は、戦国時大名として知られる毛利元就が、嚴島神社の神職であった棚守房顕に宛てた手紙（書状）です。

内容を読み解くと、毛利元就が「名代」（代理人）として「勝楽寺」を嚴島神社へ参拝させ、房顕に「御祈祷」を依頼しています。

書状にある「六月十五日」の日付は、嚴島神社で毎年旧暦 6 月 17 日に行われる、日本三大船神事の一つである「管絃祭（かんげんさい）」の 2 日前に当たります。毛利氏は管絃祭の費用を支援したり、自身の代理を派遣しているため、「勝楽寺」の参拝も管絃祭の開催に伴い社参したのだと思われます。

この手紙が書かれた年代は、毛利氏が管絃祭を支援し始める天文 19 年（1550）8 月以降から、元就が亡くなる前年の元亀元年（1570）までの間と推定されます。